令和６年度　出雲養護学校　校内研究まとめ
（２ヵ年研究　２年次）
【研究テーマ】　探究的な学びの実現
～地域と連携した取組を通して～

Ⅰ　本年度の研究について

１　本年度の研究の背景

学習指導要領では、「予測が困難で複雑で変化の激しい社会において、人生を主体的に切り開くための資質・能力を育成すること」が目指されている。そのためには、答えがすでにある学び方から学んだことを活用して自分なりの答えを見つけていく学び方への授業観の質的な転換が求められる。本研究では、“学んだことを活用して自分なりの答えを見つけていく学び方”を具体化するものとして「探究」をキーワードに掲げ、探究的な学習過程（以下、「探究的な学び」と表す。）を意識した授業づくりを目指してスタートした。

また、本校ではグランドデザインに基づき、それぞれの学習グループで地域と連携した取組が積み重ねられていた。そこで、これまで行ってきた「地域と連携した取組」の中で、地域とつながりをもちながら児童生徒の「探究」する姿を引き出す授業づくりをすることはできないかと考え、本研究主題を設定し、令和５年度からの２カ年計画で進めてきた。

２　本年度の研究の目的

地域と連携した取組を通して、児童生徒の学びの過程を検討し、探究的な学びの実現に迫る。

３　研究の内容

（１）地域と連携した取組を通して、探究的な学びを実現する授業づくりを行う。
（２）授業実践を通して、各学部・分教室等でカリキュラム・マネジメントを行う。

４　研究計画（２カ年計画）

(１年次)①各研究グループで、「探究的な学び」を目指した授業づくり
②授業実践を通したカリキュラム・マネジメント

(２年次)①１年次の実践で明らかになった探究的な学びの視点を基にした授業づくり
②１年次に検討したカリキュラムの実施と評価

５　研究グループ（全９グループ）

本校各学部、肢体不自由部門、寄宿舎、各分教室

６　研究のスケジュール

４月		１０月	授業づくり②
５月	研究職員会	１１月	
６月	授業づくり①	１２月	
７月		１月	研究のまとめ
８月	探究パネル交換会 外部講師研修	２月	研究報告会
９月	研究中間報告会 島根県特別支援学校教育研究会 知的障がい教育研究協議会	３月	

７　研究のためのツール

それぞれのグループで研究テーマに沿った授業づくりができるように全校で共通の様式として探究シートを作成した。１年次（令和５年度）は、児童生徒の実態に応じた「探究的な学び」を考える手がかりとなるように項目を設定した。２年次（令和６年度）は、１年次の取組を踏まえて、２年次の研究の取組に合わせて探究シートの様式（図１）を見直した。

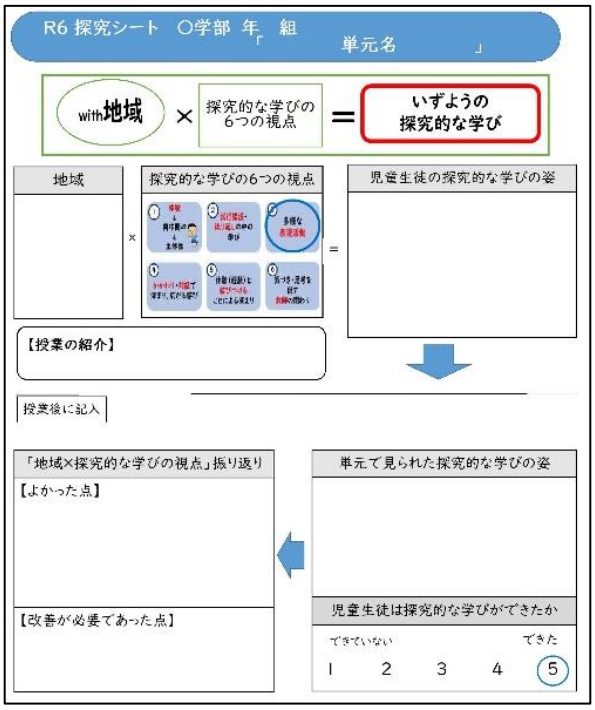

図１　令和６年度版　探究シート

Ⅱ　令和６年度の実践

１　探究シートを活用した授業づくり

授業づくりにあたり、令和６年度の授業づくりで大切にしたい以下の２点を全校で共通理解した。

（１）豊かな体験をもとにした授業づくり

令和５年度の外部講師からの助言をもとに、「五感をフル活用した豊かな体験活動」を基にした授業づくりをすすめることとした。

（２）いずようの探究的な学びの定義

令和５年度の研究成果「探究的な学びの６つの視点」（図２）を授業づくりに活かし、いずようの探究的な学びを以下のように定義づけ（図３）、全校で共通理解した。

図2 探究的な学びの6つの視点

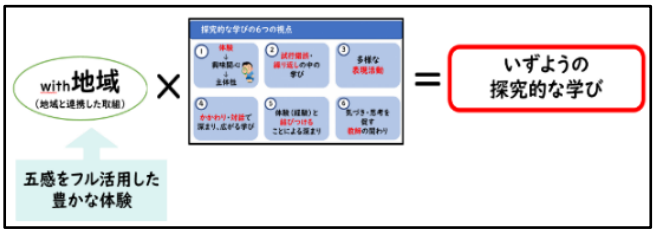

図3 いずようの探究的な学びの定義

授業づくりは、各研究グループで計画を立てて取り組んだ。探究シートを活用した授業は、１学期、２学期にそれぞれ１回行い、グループごとに授業の振り返りを行った。各研究グループの実践、取組については、表１に示した。

表１ 令和6年度の各学部・分教室等の取組

	研究の取組	教科・領域等	授業実践（一部抜粋）
小学部	・地域での体験活動をもとにした授業づくり ・校外学習と関連させた授業づくり	生活単元学習	・校内の畑での栽培・収穫をもとに、野菜をテーマにした学習 ・牧場での校外学習から牛をテーマにした学習 ・修学旅行でのぶどう狩り体験をもとに、ぶどうをテーマにした学習
中学部	・学年ごとにテーマを決めて地域と連携した取組 ・「地域」と関連させた授業づくり	総合的な学習の時間	・地域の田んぼでの米作りを行い、各教科と総合的な学習の時間と関連させた学習 ・地域の名産品（西浜いも）を題材にした学習
高等部	・4つのテーマを設定した総合的な探究の時間の授業づくり ・学習の伴走をするナビゲーター（地域の人）の配置	総合的な探究の時間	・①出雲ブランド②出雲の歴史・伝統文化③暮らしやすい街④神西地区縁結びの4つのテーマから生徒が選び、テーマごとにグループで探究活動を行う学習
寄宿舎	・地域の方とのモルック交流	地域交流	・地域の方を対象にしたモルック交流会の開催 ・実行委員の生徒を中心にした交流会の企画・運営
肢体不自由部門	・地域と関わる活動の中で、子どもたちが表現できる授業づくり	自立活動 生活単元学習	・高等部リサイクル班のパルプを題材にした学習 ・高等部の生徒とのお楽しみ会を題材とした学習
みらい分教室	・「体験を通した学び」と「工夫して表現すること」に重点を置いた授業づくり	総合的な学習の時間	・学校周辺の湖や川を題材にし、湖や川での生き物探しや湖についての学習 ・出雲市の伝統工芸を題材に自分たちの生活との関わりを考える学習
大田分教室	・「地域のひと」と一緒に、体験活動をもとにした授業づくり	生活単元学習 総合的な学習の時間	・地域の方を招待するカフェを開くことを題材にした学習 ・地域の課題について、自分たちができることとして海岸清掃や公共施設の清掃を実践する学習
雲南分教室	・自分たちが暮らす地域に関わり、「地域に住む人々のしあわせのため」をテーマにした授業づくり	総合的な探究の時間	・「人口減少に歯止めをかける」をテーマに、定住者向け、移住者向けの取り組みについての学習 ・地域について調べ、「町おこし」につながる取組を考える学習
邇摩分教室	・地域の方を対象にした交流会を題材にした授業づくり	総合的な探究の時間	・地域の高齢者施設の利用者を対象にしたボッチャ交流会を企画・運営する学習

２　夏季研修「探究パネル交換会」

夏季休業中に、各研究グループの実践を「探究パネル」として表し、探究パネル交換会を実施した。本校・分教室の教職員、寄宿舎指導員の全員が集まって、学部・分教室等が混合したグループで、探究パネルを見て実践を共有し、意見や感想を交換した。

３、島根県特別支援学校教育研究会
知的障がい教育研究協議会（県知研）

令和６年９月２０日（金）に、島根県特別支援学校教育研究会知的障がい教育研究協議会を開催した。この協議会では、本校舎の小学部・中学部・高等部で校内研究に関わる授業公開と研究協議、寄宿舎で取組の発表（表２）と外部講師を招いて校内研究に関わる講演会を実施した。

表２　島根県特別支援学校教育研究会知的障がい教育研究協議会での授業公開と取組発表

学部等	公開授業と取組発表
小学部	小学部１年　遊びの指導 「おやさいランドであそぼう」
中学部	中学部１年　総合的な学習の時間 「地域の魅力を発見しよう ～地域の田んぼでの米作りを通して～」
高等部	高等部２年　総合的な探究の時間 「みんなが生きやすい出雲にするために、学び、行動しよう」
寄宿舎	取組発表 「地域交流を通して卒後に生きる探究的な取組」

また、昨年度に引き続き２名の外部講師をお招きして校内研究に関わる講演会を実施した。研究協議や講演会で助言のあった内容の一部は以下の通りである。

【慶応義塾大学　鹿毛雅治　教授】
- 意欲的な学びのためには、①やりたい（学びへの欲求）②やるべき（学ぶ価値）③やれそう（できる自信）がそろった環境が大切である。
- 子どもが学びを楽しむためには、指示したり、答えさせたりする「北風型アプローチ」よりも、題材やしかけなどの環境を利用した「太陽型アプローチ」が有効である。

【島根大学　中村怜詞　准教授】
- 地域と子どもが「共同体」になることで、両者が目指すことを共有して互いに力を発揮する「協働」が生まれる。
- 他者との対話を通してメタ認知をすることで、自分で問いをたてることにつながり、思考力が育つ。

４、授業実践を通したカリキュラム・マネジメント

令和５年度に検討したカリキュラムを令和６年度に実施し、その評価と次年度の検討を行った。

Ⅲ　成果

１　探究的な学びの６つの視点

令和５年度の研究の取組で、探究的な学びを引き出す授業づくりの視点としてまとめた「探究的な学びの６つの視点」をもとに、令和６年度は授業づくりを行った。実際に授業づくりに活用する中で、「授業づくりのツールとして使いやすいものであった。」「いくつかの視点から選ぶことができるので、学習グループの実態に合わせた授業づくりができた。」等の感想があった。また、令和６年９月に開催した島根県特別支援学校教育研究会知的障がい協議会に参加した外部の先生からも、「分かりやすい。」「考えやすい。」といった感想が複数あった。

２　いずようの探究的な学び（地域×探究）の具体化

表１に示したように各研究グループでいずようの探究的な学びをめざした授業実践が数多く行われた。それを通して、

「いずようの探究的な学び」（＝出雲養護学校の児童生徒の実態に合った探究的な学習過程）が具体的に見えてきた。

今年度は、各研究グループから報告のあった授業実践を共通点から 4 つに分類し、そこでの代表的な児童生徒の学びの姿をまとめた。

①各教科や自立活動における「いずようの探究的な学び」

授業実践	探究的な学びの姿
小学部１年　遊びの指導 「おやさいランドで遊ぼう」	・子どもの中で「？」が「！」に変わること ・もの（題材）を通して人と関わる ・五感を通して変化や違いに気付く
肢体グループたんぽぽ１組 自立活動「パルプを触ってみよう」	
大田分教室３・５・６年 生活単元学習「はっぴーかふぇおもてなしだいさくせん」	

②総合的な学習の時間の導入期における「いずようの探究的な学び」

授業実践	探究的な学びの姿
中学部１年 総合的な学習の時間 「地域の魅力を発見しよう」	・体験から「問い」が生まれる ・自分の「知りたい」「やりたい」を追求する ・これまでの経験や学習との結びつきに気付く
みらい分教室小学部４年生 総合的な学習の時間 「神西博士になろう」	

③総合的な探究の時間の「いずようの探究的な学び」

授業実践	探究的な学びの姿
高等部１年 総合的な探究の時間 「みんなが生きやすい出雲にするために、学び、行動しよう」	・体験や地域の人との関わりで地域を知る ・自分ごとの課題・疑問をもつ ・課題の解決方法を考える
雲南分教室１年～３年 総合的な探究の時間 「うん！なんでも聞いてみよう会」「地域とつながる学習」	

④地域の方との交流会における「いずようの探究的な学び」

授業実践	探究的な学びの姿
邇摩分教室 総合的な探究の時間 「ボッチャを広めよう」	・繰り返しの中で課題を改善 ・地域と交流するよさを実感 ・自分のよさを活かして地域と関わる
寄宿舎「モルックで地域交流」	

３　カリキュラム・マネジメントの推進

探究シートを活用した授業づくりを通して、各学部・分教室等でカリキュラム・マネジメントを進めることができた。各研究グループで行ったカリキュラム・マネジメントの内容は表３の通りである。グランドデザイン、学校経営プランの重点項目と校内研究との関わりを整理して研究をすすめたことで、学部・分教室・寄宿舎の取組と連携しながら校内研究をすすめることができた。

表３　令和６年度のカリキュラム・マネジメントの内容の一部

計画	・年間指導計画・全体計画の見直し ・総合的な学習（探究）の時間の目標を３観点で整理
学習のつながり	・教科横断的な学習計画 ・年間のテーマを決めた授業づくり ・行事・校外学習・修学旅行等との関連
カリマネの体制	・【高等部】コアの会と校内研究の連携 ・学部・分教室運営と校内研究連携

Ⅳ　課題

２年間の取組を終え、課題を４点にまとめた。

１　多様な児童生徒の「探究的な学び」の検討

出雲養護学校には、多様な児童生徒が在籍するが、一人一人の「探究的な学び」が十分に達成できたかというと不十分な点も多かった。実態把握、これまでの学び、障害特性への配慮等を検討した授業づくりについては引き続き検討する必要がある。

２　持続可能な地域とのつながりの模索

授業づくりにおいて地域と連携することの難しさは多くの研究グループで挙げられた。学習の効果的なタイミングで地域と連携したり、学習のねらいを地域の人と共有しながら連携したりするための工夫やこれまでつながってきた地域との「持続可能なあり方」を模索することが必要である。

３　学びのつながりをさらに検討する必要性

２年間の校内研究での授業づくりでは、その単元、その年度の授業に焦点をあてることが多かったが、３年間あるいは６年間の学びの連続性につなげていくことは、今後の課題である。その際、各教科・領域・行事などのつながりについても併せて検討をしていきたい。

４　個の学びと集団の学びのつながり

学習を進めていく上で、児童生徒の見つけた問いや疑問が分かれていったり、アプローチの仕方が異なったりすることが生じる。その際に個の学びと集団の学びのつながりと意識した授業づくりも課題である。

Ⅴ　終わりに

２年間の校内研究の取組を通して、“出雲養護学校の児童生徒の「探究」とは”という問いに全校の教職員で挑戦した。１年目の令和５年度は、出雲養護学校の児童生徒の「探究」とは何かを模索しながら試行錯誤の授業づくりとなり、苦しい時期でもあった。しかし、１年次の取組から見えてきた授業づくりの方向性を探究的な学びの６つの視点として整理し、２年次に共通理解して授業づくりをしたことで「出雲養護学校の児童生徒の探究」が少しずつ明確になり、具体化してきたように感じられた。「自分なりの答えを見つける」という新しい学び方の難しさと楽しさを校内研究の取組を通して教職員が経験することができた２年間であった。今後は、この校内研究を通して出てきた課題を整理し、取組の成果を持続可能なものにできるよう体制作りをしていきたい。

代表執筆者
島根県立出雲養護学校　藤岡里恵
（令和７年３月）